

令和4年度
田上町教育に関する事務の
点検及び評価報告書

令和5年9月
田上町教育委員会

目 次

1. 田上の12か年教育の推進		
① 教育内容の充実	総合評価：B (73.2)	P 1
② 教育環境の整備	総合評価：B (75.0)	P 6
2. 教育支援の充実		
① 教育支援の充実	総合評価：B (71.8)	P 9
3. 生涯学習の推進		
① 施設の有効活用、連携と施設の充実	総合評価：B (75.0)	P 12
② 生涯学習の情報提供	総合評価：C (50.0)	P 13
③ 多様な学習機会の創出と展開	総合評価：B (72.7)	P 14
④ 主体的な活動への支援、人材の育成、活用	総合評価：B (66.6)	P 18
⑤ 地域活動との連携、活性化	総合評価：B (70.0)	P 19
4. 生涯スポーツの推進		
① 生涯スポーツの普及、啓発	総合評価：B (75.0)	P 22
② スポーツ施設の管理、運営	総合評価：C (50.0)	P 23
③ スポーツ活動の振興	総合評価：B (75.0)	P 24
5. 芸術・文化の振興		
① 芸術行事等の充実	総合評価：B (75.0)	P 26
② 芸術、文化団体の指導者の育成	総合評価：B (75.0)	P 27
6. 文化財と伝統芸能の継承		
① 文化財の保存・活用	総合評価：C (58.3)	P 28
② 伝統芸能の継承	総合評価：C (50.0)	P 29

評価方法

【各事業評価の数値化】

s = 期待される水準をはるかに上回っている (100)、a = 満たしている (75)、
b = やや満たしている (50)、c = あまり満たしていない (25)、d = 満たしていない (0)

※ 各事業の数値化において、今での「a」評価を「s」評価に、「b」評価を「a」評価にという形に変更しました。また、「a」評価の「十分満たしている」を「満たしている」、「b」評価の「満たしている」を「やや満たしている」に変更しています。

【各項目の評価基準】

A = 100～81 B = 80～61 C = 60～41 D = 40～21 E = 20 以下

※ 各事業の評価を数値化し、その平均値を上記の評価基準に基づいて総合評価といたしました（小数点第2位以下切り捨て）。

※ 各事業評価右側の（ ）内は、前年度の評価を明記しております。

1. 田上の12か年教育の推進

① 教育内容の充実

総合評価：B (73.2)

施策のねらい

- ・ 「田上の12か年教育」の推進に向けて、幼小中学校の全職員が「褒めて育てる教育」を基盤に「ミッションに基づく一体感を伴う指導」、「子どものよさと可能性に着目した指導」に努めながら評価と改善に取り組み、その実効性を向上させていきます。
- ・ 園児、児童、生徒と教職員を対象に「田上の12か年教育」アンケートを実施し、その結果から次年度の全職員で改善・努力すべき事項をはっきりさせます。そして、保護者からのアンケートや地域の方からの意見も参考にし各校が改善・努力事項を自校の運営や学習指導、生活指導等に活用できるようにします。
- ・ NRT標準学力検査（全学年対象）、文科省の全国学力・学習状況調査（小6と中3対象）等の分析結果を各校に提供し、授業改善の推進を支援します。

(1) 「田上の12か年教育」の理念継承

評価：a (a)

【事業の概要】

「田上の12か年教育」の理念と取組を園・学校・地域が共有し合って、互いの役割を担いながら田上の子どもの教育にあたる。

【成果】

田上の12か年教育の中核であるキャリア教育に係る事項並びに主体的・対話的で深い学びに係る事項について、年中園児から中学3年生までと教職員全員を対象にアンケート調査を行った。その結果を広報紙や研修会等で園・学校に示すとともに、単年度のグラウンドデザインにして全教職員に配付し、周知した。園・学校がミッションと連携の重点、互いが担い合う役割等を理解し合って、田上の子どもの指導にあたるようにした。

【課題・意見】

校長のリーダーシップと説明努力で保護者・地域から学校に関心を一層深めていただき、学校の応援団を増やしていく。

(2) キャリア教育の推進

評価：a (a)

【事業の概要】

田上の子どもが田上で多くの人と関わり、多様な経験を積んでいく活動を通して、「夢に向かう力」、「課題を捉え解決する力」、「自分の良さや可能性を見つけ発揮する力」、「よい人間関係を構築する力」、「田上への愛着心」を育む。

【成果】

町内の商工業者やPTA、学校関係者、教育委員会等で組織する「田上町キャリア教育推進協議会」を設置し、幼・小・中学校及び地域、産業界からの参加を得て、一貫したキャリア教育を展開した。感染症の影響で活動が制限される中、田上小学校は地域に出て田上の良さを体験したり調べたりする「田上学」と地域の方から学ぶ「寺子屋授業」、羽生田小学校は「見つけよう田上の宝～身近にあるもの、梅・竹・米～」を学習のテーマに設定し、「田上の宝」を探す活動、田上中学校は「地域に学び、地域とつながり、地域の未来を考える」をテーマにした地域学習など、ふるさとを大切に思う心を育てる活動に取り組んだ。

【課題・意見】

感染症の影響で活動が制限される中、各学校は学校独自の特色ある学習を提案し、児童生徒も積極的に多くの人と関わり、田上への愛着心を育む活動に取り組んでいる。しかしながら、保護者はこの活動がキャリア教育であるとの認知度が低いと感じられる。今後はより一層、学校・保護者・地域が一体となって取り組みを活性化するとともに、保護者への周知と理解を図っていきたい。

(3) 学習指導要領の徹底

評価：a (s)

【事業の概要】

学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、その目標を達成できるように幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組む体制を構築する。

【成果】

学習指導要領と田上の12か年教育とのつながりを明示し、田上の教職員が努力と創意すべき事項を確認し合えるようにした。小中学校がプログラミング教育を自校の年間指導計画に位置付けて確実に実践できるよう支援するとともに、小中学校でのmBot（プログラミング教材）の共通活用による指導の充実、タブレット端末による学習ソフトの活用などを推進した。

【課題・意見】

新潟県教育委員会の施策である教員一人一人のOJT（On the job training：日常業務につきながら行う教育訓練）で力量を向上させている。田上町の小中学校のICTの取組の概要を保護者と地域の方々に広報紙等で周知して、その実効性向上につないでいく。

(4) コミュニティ・スクール

評価：a (a)

【事業の概要】

「開かれた学校」から1歩前進し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を實現していくのかという目標やビジョンを保護者・地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちを育む、「地域とともにある学校」を目指す。

【成果】

平成29年4月1日に小中学校3校で学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートした。感染症の影響で活動が制限される中、学校地域コーディネーターの関わりにより、たがみバンブーなど学校と地域が接する機会が増えた。

【課題・意見】

「地域とともにある学校」を目指し、制度の浸透・地域の理解を深めるため、学校、学校運営協議会委員、学校地域コーディネーター及びPTAがさらに連携し、町全体で子どもを育む体制の構築に努める。

(5) 総合学習事業

評価：a (a)

【事業の概要】

地域の協力を得ながら、各校の生活科と総合的な学習の時間における町内での多様な活動を支援する。

【成果】

田上の人材活用資料を活用する、グランドデザインに主な活動を掲載して保護者に周知する、学校地域コーディネーターを活用することによって、各校では、活動の評価と見直しが推進されている。

【課題・意見】

現行の活動を学習指導要領の目標や授業時数とのつながりで全校的に見直して、児童生徒がよりよく課題を解決しながら自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けていくことが課題である。

(6) アウトメディア・ウィーク事業

評価：a (s)

【事業の概要】

幼児園年中から中学校3年生まで、園児・児童・生徒が在籍する全家庭を対象に、家庭での子どものメディア接触について、家族で考え、家族でルールを作り、家族で取り組むことを促す。

【成果】

町教研養教部会と連携して、年3回実施した。メディア接触に伴う様々な問題や発達段階に応じた具体的な取組を保護者に周知した。小学校の保護者81%以上、中学校の保護者の63%からアンケートの回答があり、関心は高いと思われる。「家庭でのメディアの計画を立てておくことはとても良いことなので続けていきたい」、「メディアを見ないことで家族と話をする時間は増えるので定期的にやるのはよい」といった肯定的な受け止めが多かった。

【課題・意見】

「家庭でスマホ使用の約束はあるか」に「ない」と回答する割合は小学校5年生から中学3年生までほぼ25%もあり、高い割合である。田上の子をネット使用等で加害者にも被害者にもさせない取組が必要である。

(7) 夢ナビカルテ事業

評価：b (b)

【事業の概要】

県教育委員会が推進する「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」を積極的に活用して、田上の児童生徒に「田上への愛着や誇りをもち、未来を切り拓く力」を育てる。

【成果】

総合的な時間を中核にして、町ぐるみで児童生徒が田上で学ぶ活動に取り組み続けている。学校は、児童生徒が多様な人々の生き方を知ったり、様々な職業を体験したりしながら、自分の学習や生活に活用することを大切にしている。一人一人が整理したキャリア・パスポートを小学校から中学校へ、中学校から高等学校に引き継いで指導に活用している。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校行事の見直しや授業時数確保等の観点から、十分な活動時間の確保が困難だった。キャリア・パスポートを家庭での話題にして、児童生徒の主体的な学習や生活に活用できるようにしたい。

(8) 田上夏まつり運営サポートスタッフ事業

評価：a (a)

【事業の概要】

小中学生が田上夏まつりに運営サポートスタッフとして参画することで、自己有用感を高めるとともに、地域との多様な関わりをもつ機会を提供する。

【成果】

昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止となったが、新たに開催された放置竹林を活用した交流人口拡大プロジェクト「たがみバンブー2022」では、商工会青年部の協力のもと、中学校2年生が竹あかり製作に参加し地域と関わることで田上への愛着心を育むことができた。

【課題・意見】

令和5年度からは、田上夏まつりを引き継ぐ形で、「たがみバンブー」が企画されることになった。参加型事業として、小中学生の関りも大きくなることが想定される。田上夏まつりを継承するイベントとして、小中学生の関り方を検討していく必要がある。

(9) 小中合同あいさつ運動

評価：a (b)

【事業の概要】

小中学生が、合同であいさつ運動を展開する。あいさつを通じて社会性を育む。

【成果】

これまでは新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、中止していたが、4年度は中学校の生徒会役員とボランティアが両小学校を訪問し、小中学生が一緒になって行うあいさつ運動を行うことができた。小中学校は、それぞれ、のぼり旗であいさつを呼び掛けたり、代表児童生徒があいさつリーダーになったりして、全校で意欲的にあいさつ運動に取り組んだ。

【課題・意見】

「きちんと挨拶できる」ことへの生徒の自己評価と教師の評価は、大変高い。田上町全体の活動にして、園児・児童・生徒・地域があいさつで交流し合う取組に育てていきたい。

(10) 管理指導主事の配置

評価：a (s)

【事業の概要】

学校運営と学習指導に係る適切な指導助言、就学指導、人事等にあたる。

【成果】

主体的・対話的で深い学びを目指す学習過程や協働的学習の組織等の具体化を3校で進め、授業改善の大切な視点として意識化が図られている。3校では、学習課題の提示を行い、児童生徒に学習のめあてを意識させるまでに授業改善が推進された。校長が学校経営に活用できる資料の収集と提供にも努めている。就学指導、事故対応や各種報告、人事案件等では、学校や関係者と連絡調整を密にして連携している。

【課題・意見】

特別支援教育に豊かな経験をもつ教諭の確保、教職員の休職による学級担任を担える講師等の確保が、より一層困難になっている。

(11) 園・校長面談

評価：a (a)

【事業の概要】

各園学校の運営方針とグランドデザインに基づいて学校評価、進捗状況を確認し合い、

改善すべき事項等を明確にして学校運営を支援する。

【成 果】

各園校長と人事や多忙化解消等について各園校の課題とその解決のプロセスを確認し合うだけでなく、幼小中連携に係る改善や学習指導要領への取組状況、教職員の様子などについても共有し合えるので有益である。

【課題・意見】

管理職のリーダーシップの育成、カリキュラム・マネジメントといった学習指導要領対応への強化を継続していく。「田上の12か年教育」との関連付けを更に図っていく必要がある。

(12) 田上町教育研究協議会支援

評価：a (s)

【事業の概要】

幼稚園、小中学校の教職員の連携による「田上の12か年教育」の充実に取り組む研修、活動費用等の支援にあたる。

【成 果】

一斉研修に「田上の12か年教育」を理解し合う場を設けた。この場の設定は、田上町の特色の一つであり、転入職員にも有益である。共通理解したい事項は資料にして全員配付し、校内研修にも活用できるようにした。幼小中が組織として取り組むべき事項並びに一人一人が努力・創意すべき事項等を理解し合い、教務室の話題にしていく機会にした。

【課題・意見】

毎年、田上町グランドデザインを更新して、一人一人の「選択と集中」事項を示し、効率的で実効性ある「田上の12か年教育」に改善していく。

(13) N R T 検査

評価：a (a)

【事業の概要】

小中学校において、客観性の高いN R T検査（標準学力検査／集団基準準拠検査）を実施し、学力定着状況並びに同一集団の推移を把握して授業改善に活用する。

【成 果】

小学校1年生から中学校3年生までの実態を把握することができ、その結果を基に各校長と情報を共有し、指導の改善に反映させた。

【課題・意見】

小学校では国語と算数の学力向上に取り組み、社会、理科などの教科への関心が希薄になる傾向がある。小中学校で学力が低下傾向にある。教職員が自分の担任学級でなくても担当していない教科であっても、児童生徒の学力に関心を強くし、授業改善に取り組むことが学力向上には欠かせない。

(14) W e b 検査

評価：a (a)

【事業の概要】

県教育委員会のW e b 配信システムに参加して、単元ごとの定着状況をきめ細かく把握し、授業改善に活用する。

【成 果】

年毎の結果と問題別正答率等を学校別に作成して、各学校に情報提供した。同集団の経年変化を提供して、学校が目の前の児童生徒の学力実態に関心を高めることができるようにした。

【課題・意見】

検査結果を学校運営や授業の改善につないで、学力向上に生きるようにしたい。

② 教育環境の整備

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 新学習指導要領に沿って教育用教材を整備するとともに、計画的な入れ替えに取り組みます。
- ・ 児童生徒用教育用タブレット端末の活用やプログラミング教育推進のための ICT 環境を充実させ、授業の効率化と児童生徒の多様な学びを推進します。
- ・ 施設設備の劣化の進行状況に伴い、計画的・効率的な整備に努め、よりよい教育環境を維持します。

(1) 学校施設の計画的な改修

評価：a (a)

【事業の概要】

学校施設等の維持管理のための適正な管理と計画的な改修を行う。

【成果】

田上小学校は、プールろ過機修繕 1,397,000 円、教務室エアコン修繕 1,639,000 円、体育館照明器具修繕 1,617,000 円、給食棟雨漏修繕 443,300 円、羽生田小学校は、汚水浄化槽スクリーン・ブローア修繕 1,320,000 円、体育館・渡り廊下・給食棟雨漏修繕 451,000 円、消雪パイプ漏水・破損修繕 352,000 円、田上中学校は、教室入口建具入替修繕 699,600 円、エキスパンション・ジョイント雨漏修繕 1,529,000 円、プール周囲(給水管・汚水排水管)修繕 4,400,000 円を行った。

また、田上小学校は、教職員玄関のオートロック設置工事 625,900 円を行った。

【課題・意見】

各学校とも築 30 年以上が経過し老朽化が進んでいるため、漏水修繕を行っている。また、当初予算で計上した修繕料のほか、緊急を要する修繕に対応するため、田上小学校は 2,617,000 円、羽生田小学校は 1,070,000 円、田上中学校は 2,708,000 円の補正や予備費充当を行った。長期的な展望に立ち、適切に維持管理していく必要がある。

(2) 教育教材等の計画的な整備

評価：a (a)

【事業の成果】

教育用コンピュータをはじめとした教育教材等を計画的に整備し、教育環境の向上を図る。

【成果】

小学校はプログラミングロボット各 3 台、中学校は 2 台の計 8 台 117,040 円を購入したほか、田上小学校はロイター板 6 台 179,740 円、デジタルスチルカメラ 33,880 円、羽生田小学校は時計模型 27,500 円、気体採取器 6 台 72,930 円、田上中学校はミシン 4 台 160,512 円、生物顕微鏡 3 台 95,700 円など、様々な教科に使用する備品を購入した。

【課題・意見】

1人1台端末については、学校での使用のほか、持ち帰りの対応を各学校でルール化している。また、令和7年度に端末の入替を行う予定であるが、その前に経年劣化等でまとめて買換えをする時期が来ることも想定し、財政計画を立てておく必要がある。

(3) 学校給食費補助事業

評価：a (a)

【事業の概要】

食味のよい地元産コシヒカリを用いた米飯給食の普及定着と、米消費拡大、給食費の保護者負担の軽減に努める。また、地元農家やJAと協力して地元産食材を中心とした献立を展開する。

【成果】

927千円を補助し地元産コシヒカリの米飯給食を提供した。また、地元産の食材を給食に使用できるように納品組合と協力して取り組んだ。

【課題・意見】

地元産の食材は、旬の時期をはずれると、生産量や品質等が安定しないことがある。

(4) 児童クラブの運営

評価：a (a)

【事業の概要】

小学1年生から6年生を対象に、希望する児童に放課後保育を実施する。

【成果】

開設日数は、田上小学校259日(平日199日、土曜・長期休業60日)、羽生田小学校283日(平日202日、土曜・長期休業81日)。利用者は下表のとおり。

マスク着用や消毒など新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を徹底して行い、クラブの安全な運営を達成した。

単位：人

	登録者数	延べ利用者数		
		平日	長期休業・土曜日	計
田上小学校	72 (±0)	5,621 (-53)	975 (-186)	6,596 (-239)
羽生田小学校	87 (-1)	6,070 (+93)	1,270 (-202)	7,340 (-109)
合計	159 (-1)	11,691 (+40)	2,245 (-388)	13,936 (-348)

※ () 内、前年度比

【課題・意見】

登録者数の増減は大きくない。土曜・長期休業の利用者が減少したが、保育ニーズは高い。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、マスク着用や手指消毒を徹底するほか、各児童クラブを2グループに分け密を避けるよう配慮しているため、指導員の勤務時数や業務量が増加している。

(5) 学校図書司書の配置

評価：a (a)

【事業の概要】

各学校図書館の環境整備、調べ学習支援、読み聞かせなど、児童生徒が図書に触れる機会やつながりを向上させる。

【成 果】

各学校に1名の学校図書司書を配置し、毎月約16時間、図書整理や選書作業、児童生徒が本に興味や親しみを感じるような図書館の環境整備に努めた。

【課題・意見】

月16時間の配置では業務量が制限されるが、担当の教職員と連携しながら図書環境の向上に取り組んでいく。地域学習センターと各学校図書館が連携し、諸課題についての情報共有を図っていく必要がある。

(6) ALT配置

評価：a (a)

【事業の概要】

外国語活動並びに英語指導を補助し、国際理解の推進と英語教育の推進を図る。

【成 果】

町全体で2人のALTを幼小中学校に配置し、3歳児から中学校3年生までの子ども達が英語に触れる機会を維持し、英語教育の推進に努めた。

【課題・意見】

令和3年度末にALT1名が自国へ帰ったため、幼小中学校4校(園)を残った2名のALTをお願いした。新たなALTを見つけることが難しく、2名とも加茂市と掛け持ちしており授業時間の調整が難しい。

2. 教育支援の充実

① 教育支援の充実

総合評価：B (71.8)

施策のねらい

- ・ 引き続き適応指導教室を開設し、不登校傾向のある児童生徒が登校して自分のペースで学習できる環境を整えます。
- ・ 支援員を配置し、年々増加傾向にある個別のきめ細かな支援を必要とする児童生徒に対する支援と見守りにあたることで、その子の学力や適応能力等が身に付く環境を充実させます。
- ・ 訪問相談員を配置して、家庭内で様々な問題を抱える児童生徒と保護者等を対象として相談業務にあたり、学校生活に向けた意欲を醸成します。
- ・ 就学補助によって、児童生徒の学びに経済的格差が生じないようにするなど、保護者の負担軽減のため、各種支援を行います。

(1) 適応指導教室

評価：a (a)

【事業の概要】

不登校等の児童生徒に対し必要な学習・教育支援を行う。

【成果】

指導員1名を配置し、不登校等の児童生徒が通いやすい環境を整備し、学習・教育支援を行った。4月から10人が登校しており、前年度と比較すると6人増でスタートし、年度を通して月10人程度であった。

【課題・意見】

指導員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう引き続き体制を整える必要がある。

(2) 教育支援委員会運営事業

評価：a (a)

【事業の概要】

障害のある子どもたちの障害の状態、教育ニーズ、保護者の意見、医学・心理学等専門的見地からの意見等を踏まえ、その子どもに適した就学先を決定していく。幼児期からの教育相談や就学相談を行う。

【成果】

竹の友幼稚園、ルーテル幼稚園、小中学校、教育委員会の担当者を集めた連絡部会を年4回開催している。4歳児から気になる園児の情報交換、行動観察による子ども理解、保護者との個別相談に取り組んだ。また、幼稚園に特別支援コーディネーターを1名配置し、子どもの理解や保護者との相談を行っている。

【課題・意見】

共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」の重要性が叫ばれるなか、適切な就学・配慮が行えるよう、幼稚園、小中学校、教育委員会が連携し、早期からの情報共有と継続的な相談支援体制の充実が課題。相談体制としては、母子健診後は年中児の子育て相談会、その後就学相談会、教育支援委員会へとつながっている。

また、保護者や周囲の特別支援教育に対する理解の促進も課題である。

(3) 支援員配置事業 評価：a (a)

【事業の概要】

特別な支援を必要とする児童生徒の身辺介助や安全確保、教育支援等を行う。

【成果】

田上小学校6人、羽生田小学校4人、田上中学校4人、計14人を配置。一人ひとりの状況に応じた学習支援、生活支援を行った。

【課題・意見】

一人ひとりに求められる支援は多様化しており、年々支援を要する児童生徒の割合は増加傾向にある。支援員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

(4) いじめ見逃しゼロスクール事業 評価：a (a)

【事業の概要】

小中学生が一緒になり「いじめ」について考え、行動することにより、いじめ撲滅、人権教育の推進を図る。

【成果】

新型コロナウイルス感染症対策で、小学6年生と中学2年生だけの小集会となった。24の小グループに分かれてSNSによる悪口の書き込みについて協議し合うことで、中学生は小学生の規範に、小学生は中学生を目標にすることができた。また、よい人間関係づくりについて学ぶことができた。

【課題・意見】

保護者や地域の関心を一層高めて、横軸の連携を充実させることが課題である。

(5) 人権教育、同和教育の推進 評価：b (b)

【事業の概要】

町教職員の人権教育への知識や関心を向上させる。

【成果】

小中学校合同で同和教育現地研修会を新発田市隣保館で実施。人権・同和教育に関する研修や啓発に努めた。

【課題・意見】

部落差別、障がい者差別、いじめ問題など、人権をめぐる問題は多様化している。人権、同和教育問題への正しい理解を一層推進し、差別の根絶を目指す必要がある。

(6) 訪問相談員配置 評価：a (a)

【事業の概要】

問題を抱える幼児児童生徒やその保護者を対象に、家庭訪問や面談を行い、相談を通して問題の解決を図る。

【成果】

週3日間、訪問相談員を配置し、家庭訪問・電話訪問・面談170回、ケース会議12回を実施。小中学校における不登校、虐待、特別支援など、問題を抱える児童生徒や保護者への相談業務、学校との連携を行った。また児童相談所とも協同しながら、進められ

たケースがあった。

【課題・意見】

近年、不登校傾向の児童・生徒が増えており、本人や家庭が抱える課題が多様化、複雑化している。課題解決に向けて、本人にも家族にも個別の関わりが必要であり、限られた勤務時間の中で支援を行うのに課題がある。学校等や関係機関との連携をこれまで以上に行っていく必要がある。

(7) 就学援助

評価：a (-)

【事業の概要】

生活保護を必要とする世帯、または生活保護に準じて経済的に厳しく、保護が必要な世帯の児童生徒に対し、義務教育を円滑に実施できるよう学用品、修学旅行費や給食費など一定の援助を行う支援制度。保護者から申請があった場合、教育委員会で認定条件に沿っているか審査を行い、認定するかしないかを決定している。認定者には年3回、7月、12月、3月に支給を行う。

【成果】

申請は4月末で一旦締め切るが、年度を通して申請は受け付けている。田上小学校14人956,521円、羽生田小学校6人408,875円、田上中学校17人2,121,510円の合計37人、26世帯が認定され就学援助費の支給を行った。

【課題・意見】

就学援助制度について、年2回全児童生徒に周知文書を配付し、町広報誌にも掲載しているが、認知度が低いように感じる。今後も引き続き保護者に対し周知を行っていく。

(8) 特別支援補助

評価：a (-)

【事業の概要】

特別支援学級に在籍している児童生徒世帯の所得が、ある一定の基準に該当することにより、就学中に係る経費の一部を補助する制度で、国庫補助事業である。交付を希望した児童生徒の世帯調書が基準に該当するか審査を行い、認定を決定している。交付対象者には年3回、8月、12月、3月に支給を行う。

【成果】

年々、特別支援学級の児童生徒が増えている傾向にある。田上小学校21人、羽生田小学校16人、田上中学校17人の合計54人在籍のうち、田上小学校17人、羽生田小学校14人、田上中学校10人の合計41人1,796,413円の支給を行った。対象外となった13人の理由は、希望しない8人、ほかの制度（就学援助）認定が5人であった。

【課題・意見】

毎年、補助金交付を希望した世帯の調書を審査する際、前年12月1日現在の世帯構成・所得について調査し、基準に該当するかしないかを充分精査し認定を行っていく。

3. 生涯学習の推進

① 施設の有効活用、連携と施設の充実 総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 施設利用の相談・支援、主体的な学習支援、利用促進に努めます。
- ・ 近隣市町村、文化協会、道の駅「たがみ」との連携を行い施設の利用促進に努めます。

(1) 田上町交流会館の運営

評価：a (a)

【事業の概要】

町民の生涯学習の振興を図るとともに、多様な交流を促進するため田上町交流会館を設置する。

【成果】

令和2年度利用者数 18,478人
令和3年度利用者数 42,047人（予防接種関係者除く：19,512人）
令和4年度利用者数 43,069人（ ” ” : 27,539人）

生涯学習系の事業に加えて、道の駅との連携事業等の実施や3階に子どもの遊具の設置、多目的ホールの開放等を実施した結果、町外の方々からも利用していただき、田上町をPRすることができた。

【課題・意見】

教育委員会だけでなく子育て支援センターや保健福祉課と連携した事業を実施し、親子や子どもの利用を促していきたい。

(2) 田上町地域学習センターの運営

評価：a (s)

【事業の概要】

町民の教育と文化の発展に寄与するとともに、地域資源等を活用した多様な活動を支援するため、田上町地域学習センターを設置する。

【成果】

令和3年3月8日オープン。令和4年度の貸出冊数、使用者数は次のとおり。

	貸出冊数	貸出人数	研修ルーム等 使用者数
H22～H30 平均	5,454 冊	2,634 人	—
令和2年度	1,944 冊	441 人	158 人
令和3年度	23,281 冊	5,308 人	648 人
令和4年度	22,704 冊	5,401 人	1,010 人

【課題・意見】

貸出冊数は減ったが貸出人数は増加した。また、学習センターで事業を行った事で学習センターの周知が広まり研修ルームの利用者が増加した。今後も利用促進に努めるとともに、蔵書を増やしていく必要がある。

(3) 施設の有効活用、連携と施設の充実

評価：a (一)

【事業の概要】

道の駅との連携を始め、町観光協会や子育て支援センター、子育て世代地域包括支援センターと連携し各種事業を実施した。

【成果】

- ・たがみ子どもまつり 参加者約 2,000 人
- ・あじさい音楽祭 参加者約 200 人
- ・たがみひなめぐり 令和4年2月4日～3月12日 椿寿荘・道の駅たがみ

【課題・意見】

発表の機会を提供するとともに連携した事業により町外だけでなく、県外の方々にも田上町をPRすることが出来た。

② 生涯学習の情報提供

総合評価：C (50.0)

施策のねらい

- ・ 広報紙、ホームページ、メール配信等による学習情報の提供を行います。

(1) 生涯学習情報の発行事業

評価：a (a)

【事業の概要】

生涯学習事業や各種大会、図書等の情報を掲載した生涯学習情報を発行する。

【成果】

毎月1回、町内全世帯に配布し、生涯学習事業の周知、参加促進を図ることができた。令和3年2月にオープンした地域学習センターの情報コーナーを設け、利用促進に努めた。

【課題・意見】

わかりやすく見やすい紙面を心がけた。また、各種教室等の情報や、サークル活動情報を掲載するなど身近な話題を発信し、生涯学習活動の促進に努めていきたい。

(2) ホームページによる情報発信

評価：b (b)

【事業の概要】

生涯学習に係る情報を町のホームページに掲載し情報発信する。

【成果】

ホームページ上に生涯学習情報を毎月の発行日に合わせて掲載した。そのほか、駅伝大会、二十歳のつどい、成人式、各種イベントの開催告知、実施報告を電子媒体で行ったことで、事業の周知、参加促進を図ることができた。

【課題・意見】

ほぼ開催告知のみしか、情報を掲載していない。例えば夏休み妙高青少年研修の写真や感想を掲載するなど、これまで以上に町ホームページや道の駅「たがみ」や地域おこし協力隊と連携し、様々な情報をより広く発信したい。

(3) メール配信、SNS を活用した情報発信 評価：c (一)

【事業の概要】

生涯学習事業や交流会館に関する情報を町メールやエックス（ツイッター）で発信し周知する。

【成 果】

交流会館の休館日については、メールで周知を行ったが、生涯学習事業については、発信が出来なかった。

【課題・意見】

生涯学習事業の参加募集などSNS等で周知を図り、参加者の掘り起こしを行いたい。

③ 多様な学習機会の創出と展開 総合評価：B (72.7)

施策のねらい

- ・ 幅広い世代を対象とした各種講座・教室を開催し、多様な学習機会を提供します。
- ・ 習得した知識を地域に広げるための支援を行い、地域へ展開できるよう努めます。

(1) ゆうゆう教室 評価：a (a)

【事業の概要】

レクリエーション、自然体験、創作活動等を通じ、楽しむことの中から子ども達の自主性や協調性、創造性及び豊かな情操を育む。

【成 果】

子どもの感染者の状況を見ながら、教室づくりを行った（人数制限、机の配置等）。新潟薬科大学との連携事業では、大勢の子どもが参加し大人気な教室となった。

期日	内 容	参加者数
4月23日(土)	絵手紙体験	13名(6親子)
5月21日(土)	親子クッキング	19名(8親子)
6月19日(日)	タイルアートコースターづくり	18名(10親子)
10月30日(日)	スポーツ教室	32名(18親子)
11月19日(土)	おもちゃ病院工作づくり	22名
12月17日(土)	ゆうゆうクリスマス	41名
1月28日(土)	ゆうゆうフリマ	15名
2月18日(土)	新潟薬科大連携スライムづくり	25名
合 計		185名

【課題・意見】

高学年の参加者が少ない傾向のため、高学年を呼び込めるようなプログラムの検討が必要である。

(2) 夏休み妙高青少年研修 評価：a (a)

【事業の概要】

自然体験や集団体験を通して生きる力を育むとともに、地域活動等でリーダーとして活動できる青少年の育成を図る。

【成 果】

新型コロナウイルス感染拡大の中、施設中は他団体利用が少なく、全てのプログラムを安心して予定通りに行うことが出来た。

年度	小学生	中学生	合計
令和元年度	15名	0名	15名
2年度	中止		
3年度	19名	12名	31名
4年度	19名	16名	35名

【課題・意見】

参加希望者が多く先着順で申込を受け付けたところ、申込開始日に連絡が殺到し混乱を生じたため、申込方法及び定員について検討したい。

(3) 子ども夏休み教室

評価：a (a)

【事業の概要】

遊びや伝統文化、生活、自然の中での体験により、心身の健やかな成長をもたらす学習機会を提供する。

【成 果】

3つのプログラムを計画・実施し、総計92名が参加した。プログラムの内容及び参加者の内訳は下表のとおり。

期 日	プログラム名	参加者
8月4日(木)	①せっけん作り	22名
8月6日(土)	②星座観察会	親子25名
8月21日(日)	④ニジマスのつかみ取り	45名
合 計		92名

【課題・意見】

参加者数も多く定着したと捉えている。今後も継続して実施していきたい。

(4) 大人のためのゼミナール

評価：a (a)

【事業の概要】

主に成人向けの各種教室(講座)を開催し、青年、壮年層の生涯学習参加へのきっかけづくりとする。また、生涯学習指導者の発掘の場とする。

【成 果】

3つのプログラムを計画・実施し、合計124名が参加した。プログラムの内容及び参加者の内訳は下表のとおり。

期 日	プログラム名	参加者
6月 1日(水) 6月 8日(水)	和布細工あじさい作り2回コース	30名
6月21日(火) 7月 5日(火) 7月19日(火) 8月 2日(火) 8月30日(火) 9月20日(火)	かなの書講座	68名

期 日	プログラム名	参加者
9月 7日 (水) 9月14日 (水)	和布細工お地蔵様作り 2回コース	26名
	合 計	124名

【課題・意見】

コロナ禍の状況をみながらの講座作りで参加者は減少し、なかなか参加者が集まらなかった。かなの書講座終了後、参加者がサークルを立ち上げることが出来た。

(5) 生涯学習行政出前講座

評価：c (b)

【事業の概要】

町が重点的に取り組んでいる施策や暮らしに身近なテーマなどを用意し、職員が出向き直接町民に説明、意見交換することにより、町政への関心を深めるとともに、生涯学習意識の啓発と行政の活性化を図る。

【成 果】

出前講座の実施はなかった。

【課題・意見】

今後も事業を継続していくとともに、より認知度を上げるべく町民への周知を行っていく。

(6) ストレッチ教室

評価：s (s)

【事業の概要】

家庭でも気軽にできる体操を通して、日常生活に運動を取り入れ、健康増進、体力向上を図る。

【成 果】

体力の低下、運動不足のため教室を毎月2回開催してほしいとの声があったが、なかなか会場を取ることができず、毎回自宅で出来る運動などのプリントを配布した。

総合計1,107名の参加があった。

年度	開催回数	参加者数
令和元年度	21回	584名
2年度	18回	680名
3年度	20回	807名
4年度	22回	1,107名

【課題・意見】

参加者より「自粛期間中に体力が低下した」との声があったため、感染症拡大防止に努めながら可能な限り継続して実施し、町民の健康づくりを支援する。

(7) 早朝ハイキング

評価：a (s)

【事業の概要】

朝の清々しい空気を吸いながら護摩堂山を登り、頂上でラジオ体操を行うなど交流を深める。納会では皆勤賞、精勤賞を表彰する。

【成 果】

今年度は天候に恵まれ雨で延期や中止もなく、7回すべて実施でき、延べ230人が参加した。11月には納会を開催し、皆勤賞19人、精勤賞6人を表彰した。

【課題・意見】

11月の納会については、田上町交流会館の多目的ホールで実施した。今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。護摩堂山への登山者が多いにもかかわらず新規参加者がいないのは各自のライフスタイルによって自由に登山する傾向となっている。令和元年より護摩堂山入口と山頂にポスターを掲示し、山頂に登山された方にチラシを配付しながら実施しており、最近ようやく新潟市や燕市在住の方などから数名参加者が増えつつあるが、高齢で今まで参加された方が参加しなくなるなどの課題もある。今後も引き続き、新規の参加者を呼び掛けていく必要がある。

(8) 囲碁将棋大会

評価：a (a)

【事業の概要】

囲碁将棋を通じ参加者同士の交流、親睦を深める。

【成 果】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により田上町交流会館の多目的ホールを使用し、高齢者も多いことから昨年同様に、テーブルと椅子による対戦とした。囲碁の部は20人、将棋の部は33人、計53人（前年度比：10人増）が参加した。

【課題・意見】

囲碁、将棋の普及、町民のコミュニケーションの場として機能している。今後も継続していきたい。また、囲碁の部は高齢化により人数が固定してきているが、将棋の部は将棋クラブなどの活動もあり小学生の参加が増えてきた。引き続き若い人からの参加を呼び掛ける必要がある。

(9) ふるさと歴史講座

評価：a (s)

【事業の概要】

田上町、その他の歴史と文化について学習し、郷土意識を高める。

【成 果】

「北越戊辰戦争と田上～人々は戦争にどう対したか～」と題して定員50人に対して34人が受講した。戊辰戦争があった時に北越地域でどのようなことが起きていたのか。また、田上の両田巻家やその当時の若者や女性たちはどうしたのかなど歴史的な背景とそこに織りなす人間模様など併せて解説し、受講者からはとても良かったと好評だった。

【課題・意見】

昨年度実施した講座でとても好評だったことから、今年度も同様の内容で定員を50名（昨年度の2倍）に増やして実施したが、定員までに至らなかった。前回の内容に加茂軍議や河井継之助に関することを加え予定よりも15分超過したものの受講者には好評だった。今後も参加者のニーズをとらえての講座開設に努めるとともに、田上町の歴史などについて深く掘り下げ興味深く質の良い講座を提供できるようにしたい。

(10) 人権講座

評価：a (b)

【事業の概要】

町民の差別問題を始めとする人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚の育成を図る。

【成果】

新潟県、総務課、町民課と連携し、拉致問題を切り口とした人権問題を啓発するため、交流会館・町民ギャラリーで拉致に関するパネルを展示した。加えて、映画「めぐみー引き裂かれた家族ー」を上映した(54名参加)。

【課題・意見】

拉致問題の関心の高さもあり町内に限らず、町外からの参加があった。今後も講座内容や実施方法等を工夫し、人権啓発に努めていく必要がある。

(11) 家庭教育セミナー

評価：a (a)

【事業の概要】

子どもの心理や心身の成長に伴う親の役割、関わり等について学ぶ機会を提供し、家庭での教育力の向上を図るとともに、家庭教育の重要性について認識を深める。

【成果】

ママのリフレッシュ講座ヨガニードル体験は、子育て支援センター、保健福祉課との共催事業。2ヵ月・3ヵ月の新生児、お父さんの参加もあった。

【課題・意見】

産後の運動をしたいという参加者の声が大きかった。赤ちゃんと一緒に運動をする機会を提供したい。

④ 主体的な活動への支援、人材の育成、活用 総合評価：B (66.6)

施策のねらい

- ・ 学習ニーズに対応できる指導者の養成を行います。
- ・ 自主的なグループ活動の支援を行います。

(1) 体験活動支援センター

評価：b (b)

【事業の概要】

地区やPTA、個人の生涯学習活動及び体験活動を支援するため、情報の収集と提供を行う。

【成果】

学年行事1件の相談があった。

【課題・意見】

コロナ禍もあり地区行事の実施が難しい状況であったため、相談件数が少なかった。町民への周知に努めるとともに、学校や地域コーディネーターと連携しながら、活用してもらえる体制を整えていきたい。

(2) 各種サークル活動の育成 評価：a (a)

【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。大人のためのゼミナール「かなの書講座」の受講者による新たなサークルの立ち上げを支援した。

【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。

(3) 二十歳のつどい 評価：a (a)

【事業の概要】

二十歳を祝うと同時に、大人としての自覚を高めてもらう。

【成果】

民法改正により「十八歳」が成人となったが引き続き、二十歳を対象に実施した。対象者による実行委員会を組織したことで、普段町事業と関わりの少ない青年層が主体的になって活動ができた。マスク着用が自己判断となったが、席の間隔をあける等の対策を実施した結果、感染者を出す事なく実施する事が出来た。

【課題・意見】

出席率が対象者全体の半分強程度（125人中79人、63.2%）の出席状況であった。引き続き、より多くの対象者から出席してもらえるような計画を実行委員と意見を交わしながら立てていきたい。

⑤ 地域活動との連携、活性化

総合評価：B (70.0)

施策のねらい

- ・ 多様化、高度化する学習要求に対応できる体制の確立をします。
- ・ 地区公民館活動や生涯学習推進員との連携を行います。

(1) 生涯学習地区推進員の活用 評価：a (a)

【事業の概要】

各地区に生涯学習推進員を委嘱し、各地区の公民館等を拠点に生涯学習活動への意欲向上、活動援助等を行う。

【成果】

推進員の役割や情報交換など認識を深めるため、7月に研修会を開催した。研修会では、推進員が各地区で実践できるよう、スポーツ推進委員によるボッチャとモルックの実技研修もあわせて実施した。

【課題・意見】

地区での実践に生かしてもらうためには、推進員自身にいろいろな教室や研修を体験してもらうことが大切と考え、令和元年度から体験型の研修会を実施している。地区で実践しやすい内容の研修を企画していきたい。

(2) 生涯学習ボランティア養成講座 評価：a (a)

【事業の概要】

生涯学習に係るボランティアを育成するため、企画から運営までのスキルアップ講座を行う。

【成果】

生涯学習地区推進員等との連携が不可欠であること、講座を企画するためには体験が重要であり、座学より実践的な内容の方が効果的であると考え、生涯学習地区推進員会議の研修と合わせて、スポーツ推進員によるボッチャとモルックの実技研修を実施した。

【課題・意見】

広報チラシの内容を再検討するなどし、生涯学習地区推進員のように町から委嘱されている方以外にも、新規の参加者・人材を呼び込める内容にしたい。

(3) 地区公民館活動補助事業 評価：b (b)

【事業の概要】

地区公民館が行う生涯学習活動を推進するため、その活動に要する経費の一部を補助し、地区の活性化と生涯学習を支援する。

【成果】

16団体に718,000円を補助。子ども会活動事業分では、3団体に37,000円を補助し、生涯学習活動を推進した。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の拡大により予定していた事業を実施できなかった地区が多く、申請額に比して実際の交付額が大幅に少額となった。今後もコロナ禍にあっても実行できる事業を検討するよう機会を見て助言する必要があると思われる。

(4) 研修参加による職員の資質向上 評価：a (a)

【事業の概要】

生涯学習事業等の企画立案から運営まで行える職員の育成を図るため、各種研修会に参加する。

【成果】

県社会教育研究大会、県公民館大会、中越社会教育研究集会、中越地区社会体育総合研修会等、社会同和教育市町村巡回研修会等、各種研修会に参加した。

【課題・意見】

できるだけ各種研修会・研究大会等に参加するよう取り組んでいる。その研修会等で得た情報や新たな関係を基に各事業の改善や新たな事業の企画につなげることが重要。今までの繰り返しだけでなく、新たな企画に取り組む機会を創出していきたい。

(5) 大学連携事業 評価：a (a)

【事業の概要】

新潟経営大学、新潟薬科大学、新潟中央短期大学と連携し、各大学の教育資源を町の教育に活用する。

【成果】

新潟経営大学からはスポーツ指導者研修会及びトレーニング教室の講師、新潟薬科大学からはゆうゆう教室の学生スタッフ、新潟中央短期大学からは幼稚園の学生支援スタッフなど、児童生徒の教育活動の多様な機会に連携することができた。

【課題・意見】

大学の教授等だけでなく生徒も派遣、協力していただき、各種研修会や教室を実施することが多かった。

4. 生涯スポーツの推進

① 生涯スポーツの普及、啓発

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ スポーツイベント、教室の開催等気軽にスポーツに取り組める機会の提供をしたり、広報、ホームページなどで、情報提供を行います。
- ・ 指導者の育成、研修会等を実施します。
- ・ 健康寿命の延伸につながる健康、体力づくりの機会の提供を行います。
- ・ 個人でもできる健康、体力づくりの場の提供をします。

(1) 田上町スポーツ協会との連携と支援

評価：a (a)

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成果】

各種大会の委託について、導入から7年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症が広がる中、感染症対策を行い各種大会運営や大会に代わる事業を開催した。スポーツ協会と各競技団体の連携を取りながら、各種大会を実行することができた。

【課題・意見】

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

(2) 佐藤杯争奪町内駅伝競走大会

評価：a (a)

【事業の概要】

青少年のスポーツ振興を図るため、郷土の生んだマラソン界の権威である佐藤秀三郎氏より優勝杯が贈られた。その争奪戦として、並びに町内の青少年の体力・精神力の向上を目的に開催する。

【成果】

新型コロナウイルス感染症が広がる中、「町内の部」、「女子の部」の2部門で開催した。当日は計8チームがエントリーし、町スポーツ協会関係者やスポーツ推進委員からも協力を得ながら円滑に大会を開催することができた。

【課題・意見】

道の駅「たがみ」オープン時間前にスタートすることにより、走路を確保することができた。新型コロナウイルス感染症を防ぐため出場を制限したため、出場チームが8チームに留まった。また、従事役員数の確保が難しい。近年は田上陸上競技協会の紹介で専門知識を持った競技役員を多く派遣していただいているが、町内の有志や大学連携事業を活用する等、広くボランティアを募っていきたい。

(3) 田上町スキー教室

評価：- (c)

【事業の概要】

スキー技術の習得・向上とともに、スキーの楽しさや冬山の自然体験を通じて、町民

相互の交流を促進する。

【成 果】

新型コロナウイルス感染症の影響により、日帰りでの開催等をスキー協会と協議したが、感染拡大防止の観点からやむを得ず中止した。

【課題・意見】

コロナ禍により令和3年に引き続き中止となり、参加者離れが懸念される。また、例年スノーボードでの参加希望がある。スノーボードの指導者確保が課題となっている。

(4) スポーツ推進委員主導による生涯スポーツの普及 評価：a (a)

【事業の概要】

スポーツ振興を促進するための指導者育成、研修会等を実施する。

【成 果】

4つの体育行事（ソフトボール大会、佐藤杯駅伝、ゆうゆう教室、モリモリ大学）の計画・運営を行った。昨年から開催している「モリモリ大学」は、研修会で学んだ知識を活かして、町内ウォーキング、スポレックを始めとしたニュースポーツ教室、そしてボクシングエクササイズを企画・開催することができ、参加者からも好評だった。

【課題・意見】

スポーツ推進委員が主体となって町内でのスポーツ振興に関わっていけるよう、研修会への参加、機会の提供を行っていきたい。

(5) ちょいトレ 評価：a (一)

【事業の概要】

運動習慣定着のきっかけと健康増進の一助となることを目指す。

【成 果】

全5回、延べ92人が参加。大学連携により新潟経営大学の荻原先生、宇佐美先生を講師として開催することができた。また、町保健福祉課と連携することにより運動習慣が必要な方に運動の機会を提供する事ができた。

【課題・意見】

初心者を対象に、継続できる運動を提案していきたい。

② スポーツ施設の管理、運営

総合評価：C (50.0)

施策のねらい

- ・ 学校体育施設の有効活用、管理運営体制の確立を行います。
- ・ スポーツ施設の今後のあり方について考えていきます。特に町民体育館について早急に検討を行います。

(1) 体育施設の維持管理 評価：c (c)

【事業の概要】

各体育施設の適正な維持管理を行う。

【成 果】

羽生田野球場ポンプ取替修繕（234,300円）、町民体育館消火管修繕（433,400円）、町民体育館アリーナランプ取換（100,100円）を始め各施設の維持管理に努めた。

【課題・意見】

町民体育館を施設の老朽化に伴い令和5年3月31日をもって閉鎖した。その他の施設については、日常的な点検や計画的な修繕、管理を行う必要がある。

(2) 学校開放事業

評価：a (a)

【事業の概要】

夜間、休日等に社会体育施設の補完施設として、小中学校の体育施設を一般団体へ貸し出すことで生涯学習、スポーツの推進を図る。

【成 果】

小中学校の体育館、中学校の武道場について学校開放を行った。申請が重なった際は団体間で調整して利用していた。

施設名	利用団体数	利用者数
田上中体育館	285 (+83) 団体	2,978 (+535) 人
〃 武道場	174 (+22) 団体	1,798 (+321) 人
田上小体育館	647 (+42) 団体	11,107 (+384) 人
羽生田小体育館	228 (+22) 団体	4,098 (-1,948) 人
合 計	1,344 (+168) 団体	19,981 (-708) 人

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の影響を懸念されたが利用団体は増加、利用者数は減少した。田上小学校及び田上中学校の体育館では、団体の加入者数が増加したため、利用者数が増加している。羽生田小学校について利用団体数は増えたが、団体に加入する人数が減っている影響で利用者数は減った。

今後、町民体育館を閉鎖した影響で利用調整を行う必要がある。また、学校施設は限られており、施設を長く使ってもらうため、利用団体には施設利用について注意を呼び掛けていきたい。

③ スポーツ活動の振興

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ スポーツ団体の育成、指導者の養成、支援を行います。
- ・ スポーツ活動を奨励します。

(1) 町内スポーツ指導者研修会

評価：a (a)

【事業の概要】

スポーツ指導者の資質の向上を目的に指導者に専門的でより高度な技能等の習得を図ることを目的とし講習会を開催する。

【成 果】

指導する上で必要な知識、技術を学ぶ事が出来た。また、町内スポーツ指導者に限らず、スポーツ愛好者等幅広い参加があった。

【課題・意見】

指導者だけでなく、アスリート本人やその家族に聞く機会を持って欲しいとの意見が多数あった。

(2) 全国大会出場者への褒賞制度

評価：a (a)

【事業の概要】

スポーツ・文化を通じて、町の代表若しくは団体の代表として各種競技会に参加、または審査会、発表会等で優秀な成績を収めた町民を褒賞する。

【成 果】

全国規模の競技大会、コンクールに出場した28人、及び国際大会に出場した1名の計29名に340,000円を授与した。個人での全国大会の出場者が主で、団体での出場が減少した(前年度比：-14人)。

【課題・意見】

制度の周知に努め、申請漏れを防いでいく必要がある。

(3) 田上町スポーツ協会との連携と支援(再掲)

評価：a (a)

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成 果】

各種大会の委託について、導入から7年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症が広がる中、感染症対策を行い各種大会運営や大会に代わる事業を開催した。スポーツ協会と各競技団体の連携を取りながら、各種大会を実行することができた。

【課題・意見】

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

5. 芸術・文化の振興

① 芸術行事等の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 文化祭等魅力ある文化行事の開催を、町民との協働のもとに推進します。
- ・ 田上町交流会館を活用した多様な芸術、文化を鑑賞する機会と活動成果を発表する機会を充実させます。また、町内外問わず芸術、文化を通じた交流ができるよう情報発信を行います。

(1) 文化祭の開催

評価：a (a)

【事業の概要】

美術及び芸能を愛好する町民の創作を発表する場であると同時に、日常生活の中で芸術文化に親しむ心を養う。

【成果】

昨年同様に新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となり、展示の部については、個人・団体併せて22団体、作品数は約183点以上の出展数となり、芸能の部では、出演団体14団体(205人)、14プログラム。開催期間2日間で1,398人の来場者となった。

【課題・意見】

昨年同様に感染症対策のため展示の部と芸能の部との動線を分け、2階の研修室をそれぞれ仕切らずにオープンにしたことにより見やすく観覧者の動線もよくなった。また、昨年の課題であった展示作品に照明があたらず暗いとの意見に対して照明器具を取り付けたことから作品がよく見え良かった。文化祭の開催時期について関係者にアンケート調査を実施したら、昨年同様に10月開催が8割と多かったことや、来年度は町制施行50周年記念事業との関係もあることから、展示の部を10月に芸能の部を11月に分けて開催することなど検討する必要がある。

(2) ロビーコンサート等の音楽振興

評価：a (a)

【事業の概要】

発表の機会をつくとともに、芸術文化を鑑賞する機会を提供する。

【成果】

「交流会館コンサート」として4回開催し387名が参加した。民謡やピアノ等と幅広い内容でクリスマスコンサートや新春コンサート、また、道の駅「たがみ」、椿寿荘、町観光協会が連携して取り組んだ「たがみひな巡り」イベントでは、開催期間中に「ひなまつりコンサート」を開催した。

【課題・意見】

交流会館多目的ホールのピアノだけではなく、交流会館1階のホール、中ホールやホワイエのピアノ等の活用したストリートピアノの実施、道の駅「たがみ」テント下での野外コンサートなども検討していきたい。

② 芸術、文化団体の指導者の育成

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 文化協会をはじめとした各種芸術、文化団体の育成、支援を行います。
- ・ 指導者ボランティアの育成を行います。

(1) 芸術、文化に関する指導者、活動組織の育成 評価：a (a)

【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。

【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。

(2) 文化協会への支援 評価：a (a)

【事業の概要】

文化協会との連携、協力体制の強化。

【成果】

文化協会の活動費の一部 250,000 円を補助した。また、町文化祭を連携して田上町交流会館で開催した。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症に伴い、各団体の活動が制限される中、比較的文化協会加盟団体数は29団体と昨年より1団体増加した。また、加盟登録者の高齢化も顕著になり、引き続き新規サークルの結成や支援をしていく必要がある。

6. 文化財と伝統芸能の継承

① 文化財の保存・活用

総合評価：C (58.3)

施策のねらい

- 文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産等・郷土資料の適正な保管、収集、管理を行います。また歴史、文化に関する講座を通して、文化財に関する意識の啓発を行います。

(1) 指定文化財の管理助成

評価：b (b)

【事業の概要】

指定文化財所有者の保存に対して、その費用の一部を助成する。

【成果】

国指定文化財：1件 10,000円

県指定文化財：1件 10,000円

町指定文化財：4件 20,000円

名木管理助成：6件 30,000円

【課題・意見】

各管理者が文化財の管理を安定して行えるよう、引き続き助成を行っていく。町指定木については、樹勢が落ちる木も出始めているため、田上町名木保護事業補助金を活用して支援していきたい。

(2) 文化財の一般公開

評価：b (b)

【事業の概要】

文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発。

【成果】

民俗資料館での常設展示中であるが、役場ロビーに展示していた行屋崎遺跡出土品については役場ロビーの多目的使用(他業務の受付など)により10月を以て撤去した。

【課題・意見】

民俗資料館については、令和元年9月より連絡先が交流会館に移ったことから、これから見たいという観覧者には鍵を開けるまで待つことになるが、支障はでていない。行屋崎遺跡の出土品展示が古く、役場ロビーの多目的な使用となったことにより10月を以て撤去したため、文化祭や交流会館で展示したり、展示場所とその方法を工夫する必要がある。

(3) 埋蔵文化財試掘調査

評価：a (a)

【事業の概要】

県営ほ場整備事業に伴い田上郷田横場地区の試掘調査を行った。

【成果】

調査面積約 385,000 m² (トレンチ数：122 箇所) の試掘を実施。遺構、遺物は確認されなかった。

【課題・意見】

田上郷横場地区の試掘調査が終了した。

施策のねらい

- ・ 各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場、PR 活動の促進、後継者の育成支援を行い、学校教育の場等における伝統文化活動の機会の提供を行います。

(1) 伝統芸能の保存のための支援と公開

評価：b (b)

【事業の概要】

各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場の確保や後継者の育成支援を行う。

【成果】

田上甚句太鼓保存会による小学校でのクラブ活動指導など、学校と甚句保存会が連携した取り組みを行った。また、道の駅「たがみ」と連携し道の駅イベント時、発表の場を提供することができた。五社神楽の発表については、コロナウイルス感染症予防のため湯川地区でのみ実施した。

【課題・意見】

甚句太鼓保存会については一定の支援・連携が行えているが、五社神社や川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。文化祭等での発表の場を提供したい。

(2) 小学校での伝統文化継承

評価：b (b)

【事業の概要】

伝統芸能の伝承のため小学校と連携した伝承活動を展開する。

【成果】

田上甚句については、小学校でのクラブ活動指導、運動会前の講習会、小学生の発表支援を行った。

【課題・意見】

甚句太鼓保存会については一定の支援・連携が行えているが、五社神社や川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。今後、湯川伶人会や文化協会など各団体と情報交換を行っていききたい。